

愛媛県伊方町で採集されたマメアカイソガニ

山下龍之丞¹・岩田和鷹²・山川宇宙³

¹ 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科応用環境システム学専攻

² 西条自然学校 ³ 筑波大学大学院生命環境科学研究科生物科学専攻



写真1 *Cyclograpsus pumilio* マメアカイソガニ (TKPM-AR 3575). 左: 背面, 右: 腹面.

種の記録

Varunidae モクズガニ科

Cyclograpsus pumilio Hangai and Fukui in Hangai, Kitaura, Wada and Fukui, 2009 マメアカイソガニ (写真1)
標本 徳島県立博物館節足動物標本 (TKPM-AR) 3575, 1♀, 甲長 5.9mm, 甲幅 7.0mm, 愛媛県伊方町高浦 (33.452727N, 132.262558E), 2025 年 12 月 14 日, 徒手, 岩田和鷹採集.

種の特徴

検討標本は, 甲に模様をもたず, 背面は前方が膨らみ, 後方は平滑である. 第 2–3 胸脚は前方に伸ばしても, 長節前縁は額の前縁を越えない. 第 2–4 胸脚の前節と長節は腹縁に剛毛をもち, 側面に顆粒をもつ. 第 2–5 胸脚の前節の前端は強く突出する. 尾節は第 6 腹節側に張り出す. 以上の形態形質から山下ほか (2025) に従い, マメアカイソガニに同定された.

備考

本種は新潟県から鹿児島県にかけての日本海および東シナ海沿岸, 茨城県から宮崎県にかけての太平洋沿岸, ならびに香川県, 愛媛県 (八幡浜市の 1 地点, 宇和島市周辺の 1 地点, 愛南町周辺の 1 地点) および山口県の瀬戸内海沿岸から知られていた (中岡・和田, 2014; 岡野・和田, 2020; 山下ほか, 2025). このように本種は広域で得られている一方, 既知の産地は飛び地的で, 場所によっては個体群が不安定なため, 保全上さらに詳細な分布知見の集積が求められている (山下ほか, 2025). 今回得られた標本は伊方町からの初記録となる. なお, 伊方町で, 本種は大型藻類の打ち上げが見られる礫浜海岸のうち, 潮間帯上部の礫間から得られ, 同所では他にも本種を多数確認できた. 上記の環境特性は, 他地域の本種の産地の

特性 (例えば, 山下ほか, 2025) とともに良く一致し, 本種の生息上重要だと考えられる. 一方, 上記の環境は礫浜の中でも点位的で損なわれやすい (例えば, 山下ほか, 2025). 本種は環境省の海洋生物レッドリストで情報不足に選定されており, 環境条件の変化によっては絶滅が危惧される (環境省, 2017). 愛媛県でも既知の生息地点数は多いとはいえ, わずかな環境改変で生息が損なわれる可能性がある. そのため, 今後は愛媛県の本種の個体群と生息環境の定期的なモニタリングが求められる.

引用文献

- 環境省. 2017. 甲殻類 海洋生物レッドリスト (2017). 環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/content/000037629.pdf>, 2026 年 1 月 22 日参照).
- 中岡由起子・和田恵次. 2014. 礫浜の希少カニ類マメアカイソガニの地理的分布と生息場所特性. 地域自然史と保全, 36(2):109–114.
- 岡野良祐・和田恵次. 2020. 礫浜の希少カニ類マメアカイソガニの瀬戸内海沿岸からの記録. 南紀生物, 62(2):149–150.
- 山下龍之丞・佐々木隼・山崎和哉・外山太一郎・山川宇宙. 2025. 新潟県, 鳥取県および茨城県からのマメアカイソガニの初記録とその生息環境. ニッチェ・ライフ, 13: 72–76.

(2026 年 1 月 29 日受付, 2026 年 2 月 3 日公開)

連絡先: 山下龍之丞 (e-mail: ryamashita0613@gmail.com) (Ryunosuke Yamashita, Kazutaka Iwata and Uchu Yamakawa. 2026. *Cyclograpsus pumilio* (Varunidae) collected from Ikata Town, Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 26009)